

変わる銀座

外国人客狙う大型施設出店へ

生き抜く老舗

東京・銀座が大きく変わろうとしている。31日には、外国人観光客らをターゲットにした空港型免税店が入る大型商業施設「東急プラザ銀座」がオープンし、その後も開発プロジェクトが相次ぐ。そのなかで江戸時代から続く老舗も、それぞれのこだわりで生き残ろうとしている。

バッグ専門店 独自性・こだわりで勝負



安西慶祐社長

の小物雑貨を売り始めた。先代がハンドバッグ専門店にかじを切った。時代にあわせて商材を変え、日本を代表する商業街の一線で生き抜いてきた。

「銀座は江戸、明治、大正、昭和と時代とともに顔を変えてきた。魅力向上の

せんべい店 地域密着型へ原点回帰



松崎宗仁社長

1804（文化元）年創業の銀座松崎煎餅は、3代目が65年に港区芝から銀座に店を移した。

せんべい一筋だが、こちらも柔軟に事業を広げてきた。銀座に移ってすぐのころ、せんべいは季節感が

た商品構成。「はやりや売れ筋を重視するのではなく、自分たちが自信を持って薦めたいと思うものを中心に扱っている」外国人客向けの商品構成もしていない。「外国の方が求める商品は、本来その国で受け入れられているもの。旅行者向けに用意された物ではないと思う」。このスタンスは今後も不変だ。

31日に東急プラザ銀座開店、免税店は国内最大級



東急プラザ銀座（延べ床面積5万平方メートル）は地上11階、地下5階（売り場は地下2階まで）。JR有楽町駅から銀座に向かう数寄屋橋交差点の角に立つ。東急百貨店の新業態店舗「ヒン

カリンカ」をはじめ、高級ブランド店など125店が入る。注目は、8〜9階に入る空港型免税店の「ロッテ免税店銀座」。売り場面積約4400平方メートルは本州最大規模。空港型免税店では、消費税だけでなく酒税やたばこ税などもかからない上、商品は空港で出国する際に受け取るため、外国人旅行者が空港まで持ち運ばなくていいのが利点だ。



31日にオープンする東急プラザ銀座＝東京都中央区銀座5丁目

競争を迫られるのが、銀座三越に入る「Japan」だ。地上13階、地下6階、延べ床面積約15万平方メートル。17年には、中央通り沿いの松坂屋銀座店跡地に商業施設を中心とした大型ビル（地上13階、地下6階、延べ床面積約15万平方メートル）もオープンする予定だ。

「変わるのが銀座の宿命」と7代目の松崎宗仁社長（62）。大型施設の開業にあわせて試そうと思っているのが、なじみの客と世間話が出来ような地域密着型店への原点回帰だ。幼かったころ、近所の客が店頭で雑談に花を咲かせた。せんべいについて「いつもと味が違う」「少し堅い」などと評論。こうした声に耳を傾けてきたことで生き残ってこられたと松崎さんは考える。住民が減った銀座では地域密着店が難しいため、来月、世田谷区の商店街に本店以外では初の路面店を出すことを決めた。ここでの率直な声を、銀座で生かすつもりだ。（遠藤雄司）